

(別紙1)

事業の実施内容及び成果に関する報告書

1 事業名

2021年度自転車競技の普及促進及び競技力向上に資する事業
補助事業

2 事業の実施経過

(1) 事務手続関係

2021年 4月 6日 交付決定通知書受理(4月1日付)
5月12日 交付誓約書・振込依頼届提出
7月30日 計画の変更に関する承認申請書提出
8月27日 計画の変更に関する承認通知書受理(8月23日付)
9月 6日 計画の変更に関する承認申請書提出
9月28日 計画の変更に関する承認通知書受理(9月28日付)
10月29日 状況に関する報告書提出
2022年 1月 5日 計画の変更に関する承認申請書提出
1月20日 計画の変更に関する承認通知書受理(1月17日付)
2月18日 計画の変更に関する承認申請書提出
3月 9日 計画の変更に関する承認通知書受理(3月4日付)
3月30日 精算払申請書提出
6月30日 補助金受領(24,185,211円)

(2) 事業関係

(1) 全日本自転車競技選手権大会トラックレース

2021年12月10日-12月13日 静岡県伊豆市 サイクルスポーツセンター

(2) 全日本自転車競技選手権大会ロードレース

(エリート男女、男女U23、ジュニア男女)

2021年6月23日-6月24日 広島県三原市

(3) 全日本選手権個人タイムトライアル・ロードレース

2021年6月23日-6月24日 広島県三原市

(4) 全日本室内自転車競技選手権大会 **※中止**

(別紙1)

- (5) 全日本マウンテンバイク選手権大会 (XCO・XCC・DHI・XCE)
DHI 2021年10月23日－10月24日 山口県山口市
XCE、XCC 2021年11月6日－11月7日 千葉県千葉市
XCO 2021年11月20日－11月21日 愛媛県八幡浜市
- (6) 全日本シクロクロス選手権大会
2021年12月11日－12月12日 茨城県土浦市
- (7) 全日本BMX選手権大会
2021年9月25日－9月26日 新潟県上越市
- (8) 全日本トライアル選手権大会
2021年6月27日 長野県佐久市
- (9) JOCジュニアオリンピックカップ
2021年7月17日－7月18日 長野県松本市
- (10) 全国都道府県対抗自転車競技大会 **※中止**
- (11) 室内チャンピオンズカップ (世界選手権派遣代表選手選考会)
2021年9月4日 大阪府大東市
- (12) 室内ジャパンカップ **※中止**
- (13) 室内チャレンジカップ **※中止**
- (14) 全日本選手権BMXフリースタールパーク
2021年9月18日－9月19日 岡山県岡山市

3 実施内容及び成果

(1) 実施内容

① 全日本自転車競技選手権大会トラックレース

2021年12月10日－12月13日 静岡県伊豆市 サイクルスポーツセンター

東京オリンピック・パラリンピックが開催された国際規格250m屋内木製走路である伊豆ベロドロームにて国内トラック種目の選手権者を決定する全日本選手権が4日間の日程で開催した。実施カテゴリー及び種目は男女エリートで各11種目、パラサイクリング男女で各3種目。エントリーはエリート男子103名。エリート女子19名、パラサイクリングは5名。大会は入場時オンライン体調申告申請や、競技場内に入る全ての関係者にPCR検査を義務付けし陰性証明を持った人のみ入場(参加・取材等)を可能とするなど、新型コロナウ

(別紙1)

イルス感染症対策を講じながら有観客大会として実施した。

② 全日本自転車競技選手権大会ロードレース（エリート男女、男女U23、ジュニア男女）

2021年10月23日－10月24日 広島県三原市中央森林公園

当該選手権は全世界的に統一した日程で行われる事がUCIによって定められている。その基本日程は6月であるが東京オリンピックが開催される年と重なっている為に1週早い第3週の週末に指定されており、エリートからジュニア、パラサイクリングと全6日間の日程で実施する予定だったが、新型コロナウイルス感染症の急拡大を受けて使用会場が閉鎖となってしまった為にこの日程での開催を6月1日断念（延期）する旨アナウンスした。若年者選手の保健と執務審判員確保の観点からU23以上のカテゴリーを新日程10月23日（金）～10月24日（日）で行う旨8月25日にアナウンスし、ジュニア以下のカテゴリーは未定とした。上記の日程に無観客で感染症対策を講じた上でU23、エリート、マスターズロードレースを実施したが、ジュニア以下のカテゴリーについては「第17回全国ジュニア自転車競技大会 四日市市」内において実施を模索してきましたが全国的な感染拡大収束の目途が無い為に、9月10日に中止のアナウンスを行った。

③ 全日本選手権個人タイムトライアル・ロードレース

2021年10月22日 広島県三原市中央森林公園

②のロードレースと同様に本来は6月に実施すべき大会であったが新型コロナウイルスの全国的な急拡大状態が続いた為に10月22日にU23、エリート、パラ部門にて実施した。広島県中央森林公園内サイクリングコースにてタイムトライアルを行うには非常に難易度が高いテクニカルなコースとなる事で知られており、一定間隔で出走する選手が転倒した場合に多重事故になってしまう懸念がされた事から、通常の逆方向で周回する事としてトレーニング時間を事前に設定して行った。

④ 全日本室内自転車競技選手権大会 **※中止**

2022年3月5日（土）試合会場 東京工業大学 体育館にて 開催競技（予定）

サイクルサッカー（男子・女子）サイクルフィギュア（男子・女子）を開催予定であったが、2022年2月15日現在において、まん延防止措置が3月6日まで延長する発表がされ、大会会場の利用が困難な状況となったため中止とせざるを得なかった。

⑤ 全日本マウンテンバイク選手権大会（XCO・XCC・DHI・XCE）

DHI 2021年10月23日－10月24日 山口県山口市

(別紙1)

昨今のコロナウイルス・デルタ株感染拡大の影響により、開催地である秋田県仙北市内では9月末までに開催予定のイベントを中止せざる得ない状況となり、10月1日～3日に開催予定の全日本選手権大会（マウンテンバイク）も、全国からお集まりいただくイベントとして万全な対策を講じるのは難しく、開催地とJCFマウンテンバイク委員会および事務局で協議の結果、秋田県仙北市での全日本選手権大会（マウンテンバイクDHI/XCO）開催を断念することとなった。コロナ禍のおりに開催地を模索していたところ、十種ヶ峰WOODPARKにて感染症対策を講じて実施した。参加者は全国各地から男性81名、女性10名合計91名が集まった。移動に制約が伴う期間でもあった為に大会ライブ配信も提供された。

https://www.youtube.com/live/5pt6a_Fv0nY?feature=share

XCE、XCG 2021年11月6日～11月7日 千葉県千葉市 千葉公園 特設コース
都市型MTB種目として近年誕生したクロスカントリーエリミネーター、クロスカントリーショートサーキットへ全国各地から男女94名の選手がエントリーし開催された。新型コロナウイルス感染症の拡大が依然として続いていた為に選手関係者はPCR検査を必須として陰性者のみがバブル方式を取って実施した。

XCO 2021年11月20日～11月21日 愛媛県八幡浜市 八幡浜市民スポーツパーク MTB コースにてMTBクロスカントリーオリンピック種目の国内選手権が開催された。昨今のコロナウイルス・デルタ株感染拡大の影響により、開催地である秋田県仙北市内では9月末までに開催予定のイベントを中止せざる得ない状況となり、10月1日～3日に開催予定の全日本選手権大会（マウンテンバイク）も、全国からお集まりいただくイベントとして万全な対策を講じるのは難しく、開催地とJCFマウンテンバイク委員会および事務局で協議の結果、秋田県仙北市での全日本選手権大会（マウンテンバイクDHI/XCO）開催を断念することとなった。コロナ禍のおりに開催地を模索していたところ、国際大会で実績のある八幡浜市にて開催が出来る事になった。当大会には全国から189人のエントリーがされ、13のクラスに分かれて競技が行われた。

⑥ 全日本シクロクロス選手権大会

2021年12月11日～12月12日 茨城県土浦市りんりんポート土浦/川口運動公園周辺特設コースにて依然としてコロナ禍ではあるものの、開催地である土浦市のご理解を得て大

(別紙1)

会実施する事となった。土浦市は東京都内から在来線で90分以内の距離に位置しJR土浦駅からも徒歩圏とあり多くの参加者・観客が会場に集結した。選手のエントリーは総勢402人を数えとりわけマスターズカテゴリーはその内約4割を占めており盛況となった。

⑦ 全日本BMX選手権大会

2021年9月25日－9月26日 新潟県上越市 BMX 場（金谷山公園）にてBMXレーシングにおける、全日本選手権自転車競技大会が開催された。参加者は年齢別カテゴリー毎に区分され下は5歳から上は50歳以上とひじょうに幅の広い競技者にかかれており総勢258人がエントリーした。コロナ対策の一環として大会映像がライブ配信された。<https://www.youtube.com/live/MXo0di38B4o?feature=share>

⑧ 全日本トライアル選手権大会

2021年6月27日 長野県佐久市 JR佐久平駅南 佐久ミレニアムパーク特設会場
第10回目開催となる本大会は、従来2日間開催で行ってきたがコロナ禍にある事で1日間に短縮され開催された。参加者は44名のエントリーと小規模ながらUCI競技規則を準拠した特設コースを大会前に約1週間かけて仮設のセクションを設営して実施している。男子エリート20インチクラスは（19歳以上 男子）1 土屋 凌我（無所属）540point、男子エリート26インチクラスは（19歳以上 男子）1 石原 諒也（無所属）330point、女子エリート（15歳以上 女子）1 市川 琉那（SCORPIO Japan）520pointでそれぞれ優勝しチャンピオンジャージを獲得した。

⑨ JOCジュニアオリンピックカップ

2021年7月17日－7月18日 長野県松本市 美鈴湖競技場
依然としてコロナ禍にある中、感染症対策を講じながら全日本選手権トラックジュニアを併催し実施した。参加選手はU15からジュニアまで総勢159名がエントリーし2日間に亘ってパフォーマンスが発揮された。大会期間中には計10件の大会新記録と日本記録が更新された。

⑩ 全国都道府県対抗自転車競技大会 ※中止

2022年とちぎ国体プレ大会として開催を予定していたが、新型コロナウイルス感染症の

(別紙1)

感染が爆発的に拡大していることを受け、政府による緊急事態宣言　まん延防止等重点措置により中止となった。

⑪ 室内チャンピオンズカップ（世界選手権派遣代表選手選考会）

2021年9月4日　大阪府大東市　アクティブ・スクウェア・大東
大会結果

サイクルサッカー

優勝：RSV 大阪（村上 裕亮・高橋 祐馬）

準優勝：CSCたちかわ（安井 英己・山縣 智）

3位：G.D.F OSAKA（徳広 昇・平 滉輝）

4位：立命館0B（清水 厚行・那須 誉之）

5位：立命館1（北村 拓也・鷺尾 隆磨）

6位：立命館2（西條 晴幸・阿武 隆史）

2019年12月以来の大会開催となった。コロナ禍かつ緊急事態宣言下の影響もあり、エントリーチームは6チームに止まった。

優勝はRSV大阪。2018年以来の優勝となった。この緊急事態宣言の厳しい状況下においても安定したプレーを見せてくれた。その他のチームも十分な練習や調整が行えない状況下にもかかわらず素晴らしいパフォーマンスを発揮した大会となり、今後の活動につながる大変実りある大会となった。

⑫ 室内ジャパンカップ ※中止

⑬ 室内チャレンジカップ ※中止

⑭ 全日本選手権BMXフリースタールパーク

2021年9月18日～9月19日　岡山県岡山市　旧内山下小学校　特設ステージ

第5回となる全日本BMXフリースタイル選手権が、岡山県岡山市の特設会場（旧内山下小学校内）にて開催された。新型コロナウイルスにより全日本選手権の開催延期ならびに開催地変更が続く中、国内自転車競技では今年初となる全日本選手権開催となりました。全参加者（関係者・運営スタッフ含む）に対するPCR検査実施など、昨年以上に感染拡大予防対策を施した会場にて今年のチャンピオンが決定した。

台風14号の接近に伴い、大会日程を変更（順延）することになった。17日（金）のプログラムは全て延期し、18日（土）～20日（月祝）の3日間で大会を行った。選手は4歳以下のクラスからエリートまで総勢78名がエントリー。男子エリート　決勝　台風14号の影響によ

(別紙1)

リスケジュールが順延したため、予選は実施せずエントリーした12名が決勝のみでの開催となった。決勝は各選手から高難度のトリックが繰り出される中、大会2連覇中の中村輪夢は2グループ目に登場。1ラン目のバイクトラブルにより12位スタートとなったものの、2ラン目にはミスのないライディングで91.00点を出し、大会3連覇。自身4度目となる日本一のタイトルを獲得した。女子エリート 決勝昨年の13-15歳クラス覇者で、今年よりエリートカテゴリーへと上がった内藤寧々が、大会4連覇中であり国内シーンを牽引している大池水杜を1.33点上回る得点を出し、女子では最年少となる15歳での国内チャンピオンとなった。大池は東京オリンピックにてメイクできなかった新技「バックフリップ・クロスアップ」に挑戦するも転倒し、スコアを伸ばせず大会連覇を逃した。

(2) 成 果

政府による長引く緊急事態宣言発令は対象地域拡大し、蔓延防止等重点措置の対象地域の拡大も長引き全国的に移動を制限せざるを得ない状況下、本連盟の主な大会は全国規模のものが殆どであり開催の可否は直接的に影響を大きく受けた。しかし東京オリンピック・パラリンピックが終わった年度の後半、秋頃にはそれらは小康状態となり延期していた大会は感染症対策を講じながら矢継ぎ早に実施した。ロード・個人タイムトライアルでは通常選手を背後からホルダー役員が支えて出走をするが、ホルダーを廃止し手すりに掴まって選手自身が合図で出走するなど既成概念にとらわれない手法を様々なシーンで実践した。こうして知恵と工夫でスポーツイベントが開催出来る仕組みが構築された事は、大きな収穫となった。2020年度 普及拡大事業内においてシステム開発したオンライン体調申告システム&QRコードスマホ入場管理システム、非接触大会運営等新規プログラムを実戦に投入し感染対策に貢献できた。また長い期間競技活動を自粛せざるを得なかった競技者や運営役員の活動の場を提供し、競技力向上、運営能力向上に大きく寄与する事となった。

4 事業実施に関して特許権、実用新案権等を申請又は取得したときはその内容
特になし

5 今後予想される効果
感染予防・対策を講じながら大会開催が通常時に近づいていく事が期待される。

(別紙1)

6 本事業により作成した印刷物

無し

なお、印刷物の配布先一覧は（別添2）のとおり

7 報告事項

(1) 審査・評価委員コメントへの対応状況

特になし

(2) 継続事業の成果と意義

国内における自転車競技の注目度は他のサッカー、卓球、野球などの競技に比べて注目度を集めていない。その事で大会スポンサーを獲得しづらい状況が依然として続いている。よって補助事業として支えられながら事業を継続してゆく必要性を内包している。一方でマスターズカテゴリーの愛好家が大会に多く参加するようになってきており、様々な年齢別クラスにおいて全日本選手権を開催する事が広く愛好家に支持されてきている。その事で将来的にはスポンサーに頼らず参加料収入を主とした大会運営を目指すべきと思料する。またその参加選手達は1年に1度だけ開催される種目・年齢別の全日本自転車競技選手権を年間の大きな目標として日々トレーニングするモチベーションになっている事は、フィニッシュラインを越え厳しいレースで完走する選手の表情を見る事で感じる事が出来る。こうして自転車競技（サイクルスポーツ）というスポーツを通じて国民が日々生活をしてゆくうえでの励みや、忍耐、喜びなど活気に寄与していると思われる。

(3) その他